Now「芦屋市公式Instagramから市内のスポットを紹介」

山・川・海・住宅と多彩な表情をもっている芦屋を
North(北側)Central(中央)South(南側)に分け写真で紹介。

North

1 岩ヶ平公園（岩園町）
2 奥池（奥池南町）

Central

3 旧宮塚町住宅（宮塚町）

South

4 メガストラクチャー (浜風町)
5 総合公園（陽光町）

Past「まちを彩る芦屋ヒストリー」

旧石器時代から約２万年間、人々が紡いできた歴史がある芦屋。その一部をほんの少し紐解きます。

『伊勢物語』から紐解く芦屋

芦屋の文化が醸成されるきっかけとなった要因の一つを見てみると、そこには平安時代の超ロングセラーとして今も語り継がれる『伊勢物語』が大きく関係していることに気づきます。平安時代、今から1000年以上前につくられた作者不詳の『伊勢物語』。恋愛ストーリーを軸としたフィクションであり、作中に確かな名前はでてきませんが、在原業平が主人公と考えられています。
多くの謎に包まれた『伊勢物語』ですが、物語を構成する125話のひとつ、第87段には在原業平の芦屋の別荘でのエピソードが描かれています。このストーリーにより、平安朝以降、芦屋の地は在原業平ゆかりの歌名所として有名になりました。そして、芦屋には業平に関係する伝説と地名が生まれ、豊かな文化が醸成することとなったのです。
在原業平は平城天皇の孫であり、家柄は大変良く、容姿も美男子であったと言い伝えられています。『伊勢物語』では数多くの女性と関係したモテぶりが描かれ、ときには、結ばれることが許されない立場の女性と禁断の恋におちてしまうなど、大胆な行動をとる一面を持ち合わせています。一方で歌の才能は、六歌仙・三十六歌仙として平安時代を代表する歌人として大変優れているのですから、さながら平安時代のアイドルと言える人物です。
芦屋市には、「業平町」という在原業平の名がつけられたまちがあります。業平町の名称は、大正時代に架けられた「業平橋」に由来し、1944年（昭和19年）の町名改正で誕生しました。また、芦屋市には業平の父親である阿保親王のお墓だと言い伝えられている阿保親王塚古墳があります。しかし、この古墳は、阿保親王のお墓ではありません。阿保親王塚古墳の出土品から、阿保親王の没年より約500年も古い４世紀（古墳時代前期）に造られた古墳であることが明らかとなっています。
また、市内には阿保親王の住地に建立されたと伝えられる親王寺が打出町にあるなど、業平の父、阿保親王にゆかりのある伝説も残っています。

２代目業平橋（1925年）

『伊勢物語』第87段 芦屋の灘の漁火「伊勢物語画帖」画：狩野探雪（芦屋市立美術博物館蔵）

WEB版では、この他にも「花崗岩から紐解く芦屋」と題して花崗岩と芦屋の深い関係などを紹介しています。ぜひご覧ください。

初代業平橋（1917年竣工）

阿保親王塚古墳（翠ケ丘町）